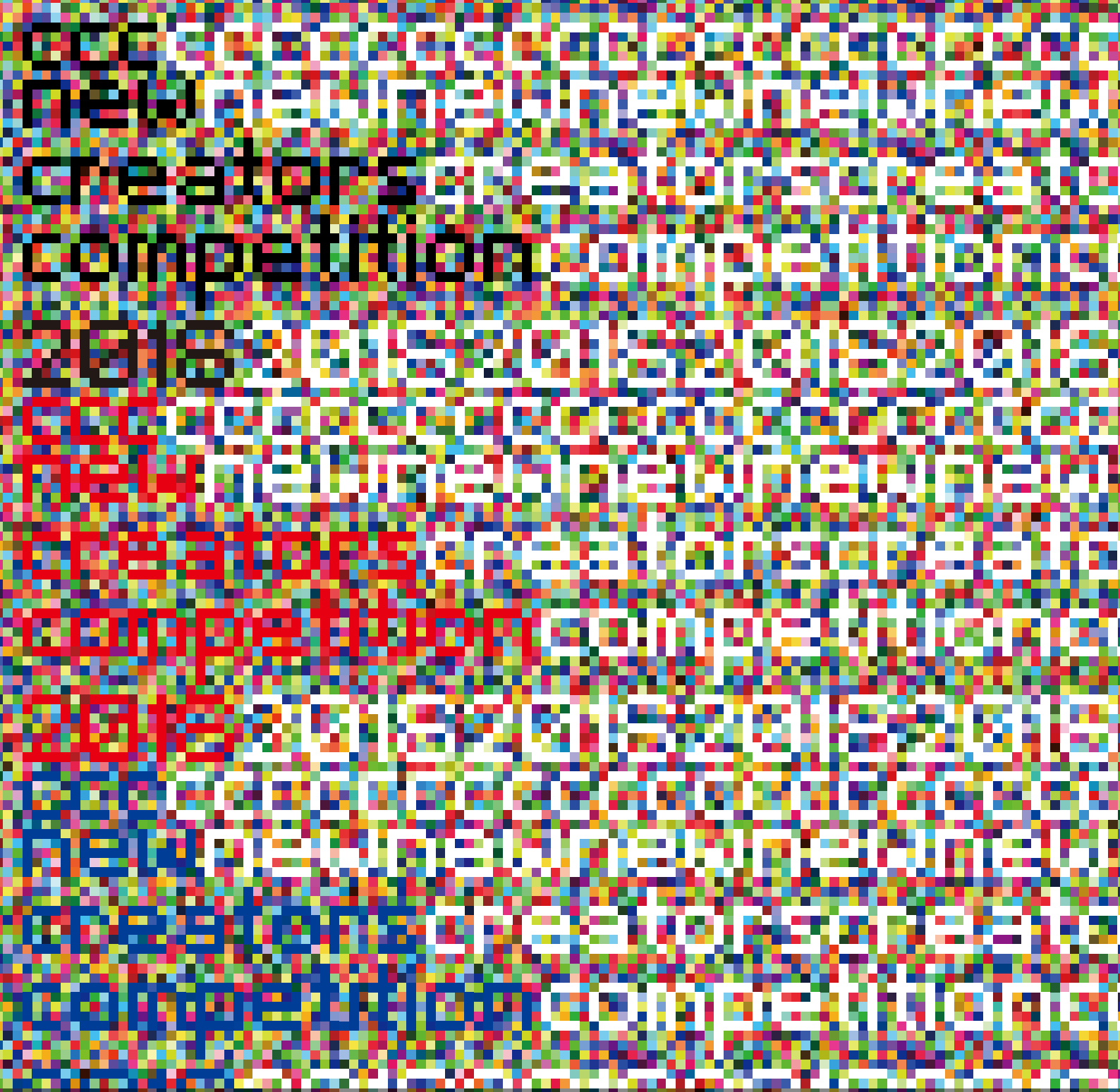


New Creators Competition 2016
展覧会企画公募 EXHIBITIONS

若手の展覧会企画者を対象としたCCC（静岡市クリエーター支援センター）の支援プログラムである「New Creators Competition 2016 展覧会企画公募」において、多数のご応募をいただきました。厳正なる選考の結果選出された2組の企画者による展示を同時開催いたします。

「コンビニ弁当の山」 企画者:新宅睦仁（しんたくともに）

「ガンマ」 企画者:大門光（だいもんひかる）

会　期: 2016年1月12日（火）～2月13日（土）（日・祝日休み）

□時　間: 10:00 - 20:30
□会　場: 静岡市クリエーター支援センター（CCC）2F・3F
□主　催: 静岡市クリエーター支援センター（CCC）
□共　催: NPO法人 しずおかコンテンツバレー 推進コンソーシアム（SCV）
□外部審査員: しりあがり寿（漫画家）、五十嵐太郎（建築評論家・建築史家）
小崎哲哉（編集者・プロデューサー）
□CCCスタッフ審査員: 久米英之（CCCプロデューサー）、大森久美（CCCキュレーター）
□入場料:無料

the center for creative communications

■本展についてのお問い合わせ　静岡市クリエーター支援センター（CCC）〒420-0853 静岡市葵区追手町4番16号　tel: 054-205-4750　e-mail: info@c-c-c.or.jp　website: www.c-c-c.or.jp/

ccc new artists creators competition 2016

「コンビニ弁当の山」 企画者:新宅睦仁(しんたくともに)

■展覧会について

全国津々浦々のコンビニで日々大量に廃棄される弁当は51万食分、金額にして2億5500万円にも達する。このコンビニ弁当を積み上げ、山として描いた作品が「コンビニ弁当の山」である。それは、米一粒にも神を見出す日本人の宗教観を踏まえれば、霊山と呼べるのではないだろうか。白米をはじめ、唐揚げ、卵焼き、スパゲッティ、漬け物など、そのひとつひとつに神がいる。つまり八百万の神がいる山となれば、それこそ霊山に他ならない。以上のような発想から、「コンビニ弁当の山」を信仰対象として、「鏡」、「酒」、「音楽」を用いて、ひとつのあり得べき宗教的儀式として構成する。

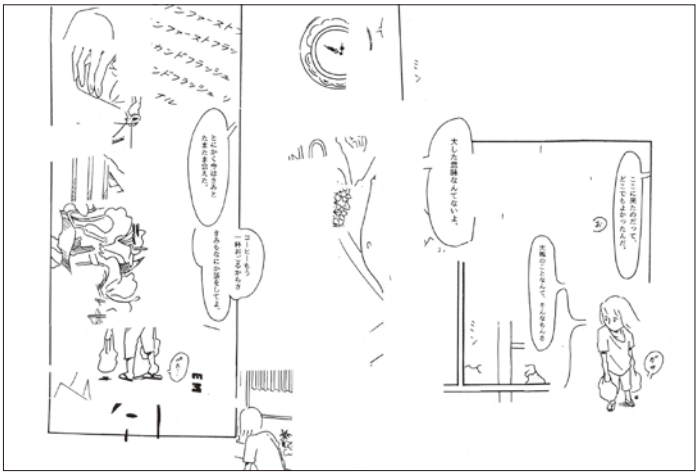
■アーティストトーク　1/30(土)15:00〜

■プロフィール

新宅睦仁(しんたく ともに)

調理師専門学校への入学を契機に、食物をモチーフに作品を制作している。牛丼やカップヌードル、コンビニ弁当等の卑近な食物を用いて、現代の状況をクリティカルに、単純明快かつシニカルに表現する事を試みている。

「ガンマ」 企画者:大門光(だいもんひかる)



■展覧会について

どのコマから読み始め、次はどの台詞を読むのか。漫画を読む為には訓練がいる。誰も教えてくれないが皆漫画を繰り返し自分の体に刷り込み、そこに内在するルールを習得していく。漫画を「読んで」いるとき、いくつものルールによって漫画は漫画足り得ているが「読む」ことをやめた途端、ルールは機能を停止し石ころのように形だけになってしまう。わたしは意味を失ったそれらをいくつか拾い、川で水切りをする。或いは家に着くまでの道すがらそれを延々蹴りながら帰ったり、アスファルトに線を描いてみたりする。そうするとルールは再び世界を世界足らしめる。それならば、見える形は違えどきっとこれも漫画なのだ。

■プロフィール

大門光(だいもんひかる)

1987年東京都出身。第7回グラフィック「1_WALL」グランプリ受賞(2012)、拡散するグラフィック展(2015)、シブカル祭。2015(2015)など。

NCC2015 審査委員 総評

□しりあがり寿(漫画家)

CCCで皆の作品を見るのは楽しい。みんなあれこれと工夫してはよくわからないものを考えてくる。ホントに人間てのは次から次へヘンなモノもの作るもんだと感心する。でも何でも作ればいいってもんでもない気もする。テキトーは悪いことだと思わないけど、物足りなさを感じることはある。今回ももっと詰められないかなー?みたいのが多かった。バカみたいに悩んでそのあげくパッと咲いたようなものをもっと見たかったです。

□五十嵐太郎 (建築史・建築批評家)

CCCの公募も回数を重ね、これまでの受賞者のその後の活動を、そろそろ総覧するような機会があっても良いのではないかと思うようになった。選んだアーティストの活躍によって、審査員の目も試されるからである。さて、今回、応募してきた作品は、昨年と比べると、全体的にややもの足りない。ここでは、ぎりぎりで落ちた榊原太朗氏のプランに言及したい。現在は日本各地で活動する静岡出身の若手アーティストのグループ展である。様々な作風なので、テーマで統一するのは難しいが、単に近作紹介をするのではなく、これを契機とするマニフェスト的なものが欲しかった。今回は落ちた他の応募者も含めて、アイデアをブラッシュアップして、是非、再チャレンジを期待したい。

□小崎哲哉 (編集者・プロデューサー)

現代アートは以下の3要素で評価される。1)視覚・聴覚など感覚への訴求力。2)作品に込められた意味や思想。3)1と2、特に2の重層性。それぞれ「感覚的インパクト」「コンセプト」「レイヤー」と言い換えられるだろう。「ガワ」と「中身」と「深み」と言ってもよい。キュレーションも同様だ。ただ並べればいいというものじゃない。1と2と3をきちんと盛り込むこと。さらに欲を言えば、なるべくわかりやすく、楽しく、観た人がそれについて話したくなるように。井上ひさしさんの言葉を借りれば「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに」。簡単ではないけれど、不可能ではない。

the center for creative communications

静岡市クリエーター支援センター　CCC (the center for creative communications)
〒420-0853　静岡市葵区追手町4番16号　tel:054-205-4750　e-mail:info@c-c-c.or.jp　website: http://www.c-c-c.or.jp/